

おきなわ・海歩き 第12回（最終回）

## サンゴ礁の海辺で

鹿谷麻夕（しかたに・まゆ）

サンゴ礁の色彩を、想像してみてください。

深い群青色の海を切り取るように、白波が立っています。この白波が連なるリーフエッジの内側は、イノーと呼ばれる浅い海。サンゴ礁が最も鮮やかで美しいところです。潮の満ち引きにつれて、イノーの色はどんどん変わります。白砂の海は明るいエメラルドグリーン。浅いほど色が明るく、深くなるにつれて緑からブルーに変化します。その中で少し黒っぽく見えるのは、海草が生えているところ。生きたサンゴは、上から見ると赤っぽい褐色に見えます。

色は季節によっても変わります。ひき潮で干上がる岩盤は茶色や灰褐色ですが、春先には一面きみどり色。この正体は緑の海藻です。中でも方言でアーサと呼ばれるヒトエグサは、柔らかくておつゆに入るととてもおいしい。沖縄で、アーサ採りは春の風物詩。干上がった岩場にしゃがみ込んで、根気よくひとつまみずつ摘んでいきます。アーサに似て手触りの硬いのは、アナアオサ。こちらもたくさん生えていますが、残念ながらおいしくありません。

この時期、水中にも食べられる海藻が茂ります。スヌイと呼ばれるオキナワモヅクです。モヅクは海藻の上に生えるので「藻付く」という名が付いていますが、オキナワモヅクは、アマモ類などの海



イノーと伊江島を望む（本部町）



天然のオキナワモヅク

草が生えている砂地でよく育ちます。海中で見ると、茶褐色の太いそうめんの一本一本が透明な粘液に包まれて、数十センチの長さにゆらゆらと立ち上がっています。根本近くからひと株ちぎるだけで、今夜のおかずには十分な量。採れたてはプチプチとした歯ごたえがまた格別で、海の豊かさを実感する一瞬です。美しい色をした海の中に、おいしいものまで隠れている。なんてぜいたくなことでしょう！

かつては、生きたサンゴをよけて歩くのが難しいほどサンゴの群落にびっしりと覆われていた沖縄の海。1970年代にはオニヒトデが大発生するようになり、74年の本土復帰後は島の乱開発で赤土が海へ流れ出ます。さらに98年の高水温によるサンゴの白化現象。ダブル、トリプルのパンチが沖縄島のサンゴを襲いました。オニヒトデは、様々な駆除活動にも関わらず今でも多くの海域で見られます。大雨の後には、大量の赤土が河口からイノーへと流れ出て海が赤茶に濁ります。

そんな沖縄で、今年の夏に国際サンゴ礁学会が開かれ、世界中の研究者が集まりました。本来の沖縄は世界的に見てもサンゴの種類が多く、グレートバリアリーフのあるオーストラリアにも引けを取らない多様性の高さで知られています。今、沖縄島のサンゴ礁は、少しずつ復活の兆しを見せ始めているところでしょう。オニヒトデがあまり食べず、白化もせずにしぶとく生き残ったキクメイシの仲間だけでなく、手の平サイズやこぶし大のミドリイシの仲間がイノーの所々で見られるようになってきました。サンゴは、1年間におよそ1センチ成長するといわれます。再び生き物たちが豊かに暮らすサンゴ礁の光景を取り戻すには、何十年もの歳月がかかることでしょう。

人は水辺で暮らしながら、陸や海的环境をどんどん変化させてきました。海岸の風景もずいぶん変わりました。この影響を大きく受けているのが、海と陸を行き来して暮らす生き物たちです。例えば普段は海にいて、産卵のために砂浜にやって来るウミガメの仲間。



死サンゴの上に育つミドリイシの仲間

産卵期は長い夏の間ですが、ある砂浜では、産卵が終わる日がハッキリ予測できるそうです。それは、夏休みの始まる日。その日から、夜ごと砂浜でキャンプや花火、中にはカラオケまで始まり、ウミガメたちが上陸をあきらめてしまうというのです。

いつもは陸に住み、子どもを海に放しに来る生き物もいます。オカガニやオカヤドカリの仲間です。

初夏のころ交尾をしたメスは、産卵した卵を自分のお腹に抱えて過します。夏の大潮の夜、卵を抱えたメスは波打ち際まで降りてきます。そして波にもまれながら、体をがくがく震わせます。すると、お腹に抱えた卵の殻が破れて、カニやヤドカリの子どもが一斉に海へ！ 試しにこのとき波打ち際の水をすくってよく見ると、1ミリに満たない小さなプランクトンの子どもたちがたくさん泳ぎ回っているのが分かります。しかし海岸に垂直のコンクリート護岸や広い道路ができると、このような光景も次第に減ってくるでしょう。親ガニは何とか海に降りられたとしても、海で成長した、それでもまだ数ミリという小さな子どもたちが、陸に上がれないかもしれないのです。

みなさんも、沖縄で海歩きをしてみてください。サンゴの海と生き物たちに触れながら、実は私たちの生活が想像以上に海に影響を与えていることに気付くと思います。海とこれからもずっと楽しく付きあっていけるように、私たちには何ができるかを考えてみませんか？



オカガニが幼生を海に放つ



みんなでビーチクリーン（佐敷干潟）